

(令和3年03月08日)

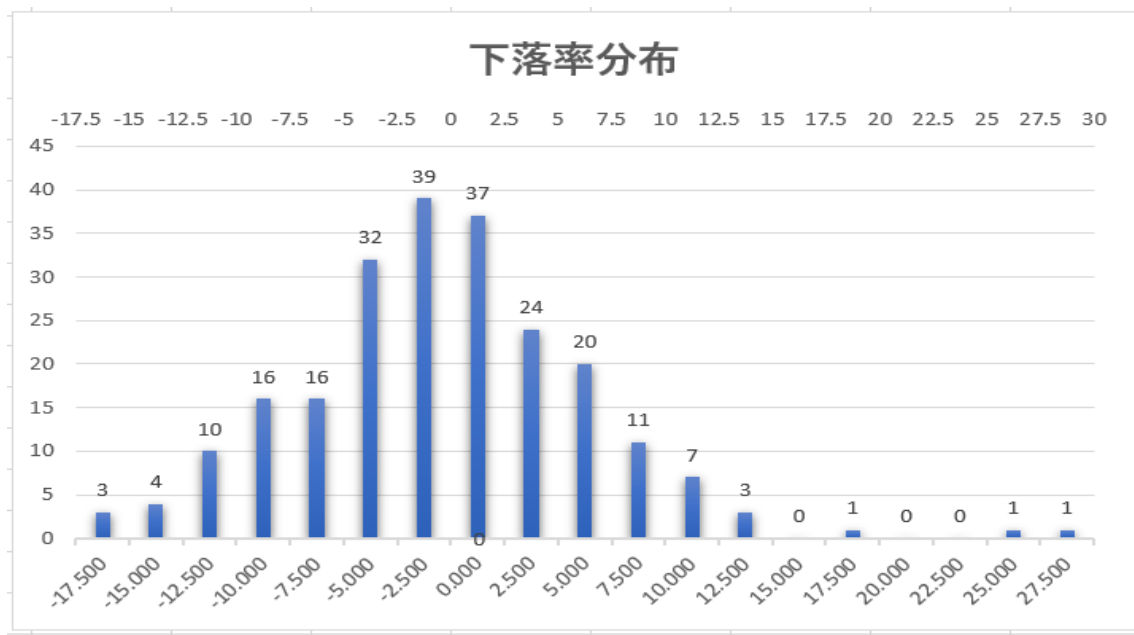
< ワンポイントレッスン (実践) >
(日経平均採用銘柄の下落率分布)

この処の調整局面、日経平均は2月16日の高値30,467.75円に対して先週末は28,864.32円と下落率は▲5.3%。下落幅は▲1,603.43円。ザラ場ベースの高値⇒安値では、▲7.8%の下落となります。比較的軽微な調整は▲10%が目途とみていますが、まだ、距離があるとは言え、それなりの下落率となっています。

ただ感覚的に上昇が目立つ銘柄が多く、日経平均採用銘柄を対象に今年2月16日の終値と先週末の株価を比較、分布をとって見たのが下記のグラフです。

結果、この間の日経平均採用銘柄の変化率の単純平均は、▲0.32%のマイナス。そして、この間に上昇したのは105銘柄、下落したのは120銘柄、大差ありません。

この日経平均の下落率との比較は、基準が異なり無理がありますが、かつて話題となった老後に必要な資金は年金+2,000万円の問題を思い出します。



マーケットをみる目としては、先駆したハイテク・半導体株の調整の中、新型コロナショック後の業績回復を受けて今まで買われていなかった銘柄の物色がどこまで続くか……。更には、その後、再度ハイテク・半導体関連を物色する好循環に入るか否か……。分岐点を迎えているように思えます。

戻って、「平均だけでは語れない (時もある)」。留意しておきたいところです。